

月刊 monthly DAY

新企画&現場で役立つ
レク情報など満載!

〈特集1〉

デイの加算算定に必要な 知識・プログラム

特集2

日常生活動作向上に
効果的な歩行訓練

〈特集3〉

「いつまでも歩き続ける」ための

楽しい! 歩行レク!!

〈新連載〉

人気のデイが行っている
新規利用者を増やす工夫

くらしの中の認知症リハビリ

別売

4月号
対応版

お役立ち
ツールCD

定価600円

(+税、送料別)発売中



デイの加算算定に必要な 知識・プログラム

通所介護編

- ・生活機能向上連携加算を算定しよう！
- ・ADL維持等加算Ⅰ・Ⅱを算定しよう！
- ・個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱの算定のコツ！
- ・認知症加算の算定のコツ！



通所リハ編

- ・社会参加支援加算の算定のコツ！
- ・リハビリテーションマネジメント加算Ⅰ～Ⅳを算定しよう！
- ・生活行為向上リハビリテーション実施加算の算定のコツ！
- ・認知症短期集中リハビリテーション実施加算Ⅰ・Ⅱの算定のコツ！



通所介護・通所リハ 共通編

- ・栄養スクリーニング加算と栄養改善加算を算定しよう！
- ・中重度者ケア体制加算の算定のコツ！



中重度の方の受け入れに対する取り組み

医療法人誠和会 倉敷記念病院通所リハビリテーション 横田 暁雄(理学療法士)

中重度者ケア体制加算を算定するためには要介護度3以上の中重度の方を3割以上受け入れる必要があります。当事業所では中重度の方の受け入れに対して、次のような対応をしています。

POINT ① 担当者会議でリハビリ職がご自宅でできることを伝え、意欲を引き出す

リハビリ職が初回の担当者会議に参加し、その方の残存能力を生かせる部分はどの部分なのか、どんな環境設定が必要かなどを、ご利用者やご家族などが具体的にイメージができるように自宅での生活を評価して提案しています。

POINT ② 看護師が定期的に勉強会を開催

看護師が中心となって勉強会を開催して介護スタッフの不安を軽減し、スキルアップにつなげています。

〈勉強会の頻度と内容〉

頻度：おおむね月1回	7月 血圧低値の方のベッドでの対応
内容：1月 パルーンルートの扱い方	8月 なし
2月 血圧測定の手順	9月 入浴時の緊急対応
3月、4月 なし	10月 ノロ物品の場所とノロの消毒の仕方
5月 汚染分類の仕方	11月 通所リハ、デイスサービス合同勉強会「ノロの対応」
6月 ストレッチャーの使い方	12月 手洗いの仕方

POINT ③ リハビリ医師が定期的に評価し、目標設定

リハビリ医師が定期的にご利用者の状態を評価した上で、適切な負荷量の設定やリスク管理を行い、医師の指示のもと、残存能力を生かした目標設定を行っています。

利用初日には全職種のスタッフ全員でカンファレンスを行い、情報を共有します。特に重度の方は健康管理にも注意が必要なため、看護師が中心となって対応し、急変時には併設病院で対応します。



リハビリ医師の診察

POINT ④ 在宅生活の中での動作指導と多職種連携による口腔ケアの実施

通所リハで行った機能訓練、動作訓練をご自宅でも生かせるよう、リハビリ職がご自宅を訪問し、生活環境の中での動作指導や、ご家族の介護負担軽減につながる介助方法の指導を行うようにしています。

歯科衛生士と看護・介護スタッフが連携して口腔ケアを実施し、誤嚥性肺炎の予防と口腔機能の維持・改善を図っています。また口腔体操や歯磨きの援助など、ご自宅でできることはご家族にも協力していただいています。

中重度者ケア体制加算のプログラム事例〈倉敷記念病院通所リハビリテーション〉



事例②

男性(78歳)・要介護4 胸腰椎圧迫骨折。
 自宅ではほぼ寝たきりの生活。
 食事以外のADLに介助が必要。
 認知機能低下により、コルセットの装着が徹底できない。

〈残存する能力〉

起居動作：自立、移乗：見守り～軽介助
 つたい歩き：見守り～軽介助
 車イス：自走可能

- 【目標】 1. 安全な移乗動作の獲得により再骨折を予防する。
 2. 離床時のコルセット着用の徹底（家族へのコルセット装着介助指導）。

実際のプログラム内容

本人・家族は「家でできるだけ生活をしていきたい」と希望していたため、目標を「安全な移乗動作の獲得により再骨折を予防する」と「離床時のコルセット着用の徹底（家族へのコルセット装着介助指導）」とし、リハビリや家族指導を行った。

〈目標1〉安全な移乗動作を獲得し、再骨折を予防する

【実施プログラム】

起立時の膝・股関節の十分な伸展とゆっくりとした着座の定着を意識した動作練習を反復した。

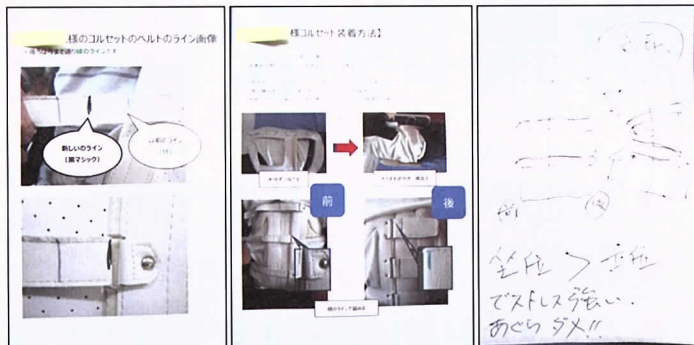
〈目標2〉離床時のコルセット着用を徹底する

【実施プログラム】

コルセット着用は要介助のため、適切に着用してもらえるよう、家族に装着方法を指導（自宅訪問・来所時に実演、コルセットに印、写真付きマニュアル作成など）。コルセットを付けない場合の骨折リスクの理解が得られるまで図解などを駆使し、本人、家族に繰り返し説明した。



ご家族へのコルセット装着介助指導



マニュアルや図解を使用し、コルセットの装着方法とリスクをご家族に指導

また、本人が装着にネガティブな印象を持たぬよう、変形によるコルセットの当たりで痛みを発するとき、義肢装具士に適宜依頼し小まめに修正した。

通所スタッフにも家族と同じく装着指導と骨折リスクの説明をした。また、本人が起床時と臥床時に座位で付け外しをしようとする傾向があることも説明し、危険場面の回避を図った。

プログラムの効果

- 約半年間、再骨折なし。
- 以前は胸腰椎圧迫骨折により数ヶ月ごとの入退院を繰り返していたが、直近の退院以降は本人の移乗動作の向上と介助者の見守り強化により、約半年間再骨折することなく在宅生活を継続できている。